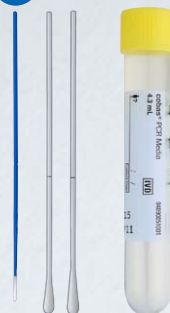


ロシユは先の、その先まで、考えています。

子宮頸管のCT/NG検体採取セットにより細いスワブを、新たに追加しました。

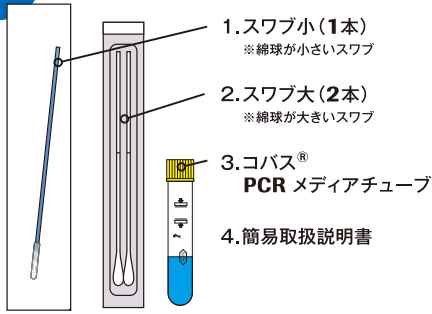
患者さんの負担や不安を、少しでも減らしたい。
だから、ロシユはスワブにもこだわります。
検体を採取しやすい、従来タイプのスワブ(2本)と、
デリケートな気持ちに応える、より細いスワブ(1本)の
2種類を検体採取セットに同梱。
患者さんに合わせて自由を選ぶことができます。

NEW!



コバス® PCR スwab検体採取セットⅡ <子宮頸管検体の採取方法>

キットに入っているもの



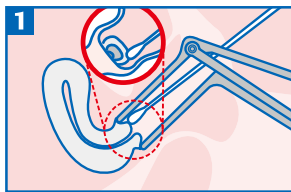
検体採取上の注意

- コバス® PCR Swab検体採取セット付属の検体採取スワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。
- 粘液を十分除いてから検体を採取してください。
- コバス® PCR メディアチューブには検体を採取したスワブのみを入れてください。
- 使用しなかったスワブは廃棄してください。
- 原則的には、スワブ大を検体採取に使用し、スワブ大での検体採取が困難な場合にスワブ小を使用してください。

一般的な注意

- 子宮頸管検体を採取する前にスワブをコバス® PCR メディアチューブに浸さないでください。
- コバス® PCR メディアチューブからの保存液飛散には十分にご注意ください。
- 検体を採取したスワブは速やかにコバス® PCR メディアチューブに入れてください。
- コバス® PCR メディアチューブは絶対に凍結しないでください。

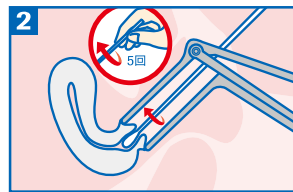
■ 検体採取の方法



子宮頸部の粘膜除去

スワブ検体採取セット付属のスワブ大を1本使用して子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を十分拭き取ります。

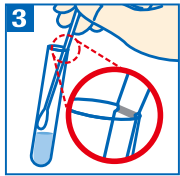
注意：粘液をぬぐったスワブは廃棄します。



子宮頸管検体の採取

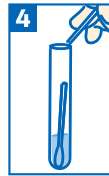
付属されているスワブ大を子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。(回し過ぎないでください。)スワブを引き抜く際は壁の粘膜に触れないように注意してください。

注意：スワブ大での検体採取が困難な場合にはスワブ小を使用してください。



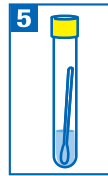
子宮頸部検体の保存

コバス® PCR メディアチューブのキャップを開けます。採取したスワブの先端の綿球が、コバス® PCR メディアチューブの保存液に浸からないように注意しながら入れ、柄の中央付近にある線をチューブの縁に合わせます。



コバス® PCR メディアチューブの容器の縁を利用して、スワブの柄に付けられた線で折ります。

注意：お手元に残った折られた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にほさみを使用しないでください。

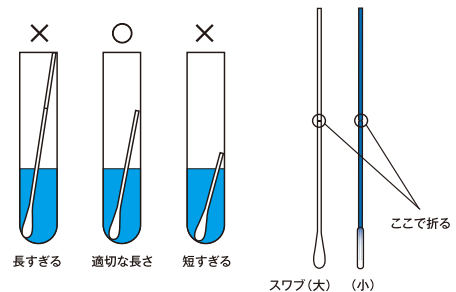


コバス® PCR メディアのキャップをしっかりと閉めます。これで検体の保管、または輸送の準備が完了です。

注意：お手元に残りましたスワブ大もしくはスワブ小につきましては使用せず廃棄してください。

■ スワブを折る際の注意

正しい結果を得るために、コバス® PCR メディアチューブに検体採取済みスワブを保存する際は必ず線の部分で折るようにしてください。柄の中央付近にガイドが付いているので簡単に折れます。



- 検体採取用のスワブは、線部をチューブの縁を利用して折ることで、保存液や検体が飛び散ることなく適切な長さで折ることができます。
- 線部以外の箇所無理に力を加えると、保存液や検体が飛散する恐れがあります。

スワブは適切な位置で折られた場合、保存液や検体が飛び散ることはございませんが、折る際に不安を感じる場合には、チューブの底部を安定した実験台や机に設置した状態で操作することで安定して折ることができます。

再使用禁止

【製造販売】 株式会社ニチリョー 製造販売届出番号：11B3X00064000003

検査要項

検査コード	検査項目	材料	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬区分番号	保険点数	保険収載名称
1486	クラミジアトラコマチス PCR	分泌物	QS	2~30℃	2~3日	PCR法 (リアルタイムPCR法)	陰性	D023-02	*1 204*2	クラミジアトラコマチス 核酸検出
1822	淋菌 PCR	分泌物	QS	2~30℃	2~3日	PCR法 (リアルタイムPCR法)	陰性	D023-02	204*3	淋菌核酸検出

*1 クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。

*2 クラミジア・トラコマチス核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。

*3 ア、淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。

イ、淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。ただし、男子尿を含み、女子尿を含まない。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法においては咽頭からの検体も算定できる。

※九州、沖縄地区の所要日数は3~4日です。